

## 戦争を語る

昭和20年4月1日米軍が上陸したという情報を聞いて中ヌティラを出て石川岳のカーラン小へ行く。カーラン小には石川の人が大勢居たので、私達が入る場所はなかった。仕方なく夜通しあてもなく真つ暗な山の中を、家族8人手をつないで歩いていたら、寝ていたアメリカ兵の足を踏んでしまい、発砲され足を踏み外し崖から転落、落ちた所は谷茶の杉山の湿地帯だった。そこから屋嘉方面へ向かつて飲まず喰わずで歩いた。お腹がすいて泣き出す赤ん坊に写真をしゃぶらせながら、屋嘉の山に着いた。屋嘉の山にも避難小屋を作って住んでいる避難民が大勢いた。山の中でお産をする人もおり、ソテツの葉の陰で産まれた赤ちゃんは翌朝には亡くなっていた。山にいた人たちが、私達は3ヶ月もそこで暮らした。



【棚原 文子さん (石川伊波)】

## 戦後復興を支えた娯楽



【石川の收容所での演芸会】

1945年3月26日の米軍による慶良間諸島上陸に続いて、4月1日の沖縄本島上陸を境に激しい地上戦が展開する一方、現在の本市内の範囲には「石川收容所」、「高江洲收容所」、「平安座收容所」等の收容所が設置され、人々はその中の生活を強いられました。

「青空教室」と呼ばれるかたちで学校が開始されたことを皮切りに、軍農園の開設、石川地区病院の設置など、教育や食糧問題、医療・衛生が改善されていきました。多くの住民たちは相変わらず米軍配給に頼る苦しい生活を余儀なくされましたが、各地で芸能や沖縄角力大会、闘牛大会といった娯楽をささやかな心の糧としながら更なる復興を夢見ました。

## 平和資料展

### 戦後復興の地うるま市

その時人々は立ち上がった

沖縄戦の終結から70年の節目にあたり、本市ではこの歴史的事実を風化させることなく次世代に正しく継承していくため平和資料展をはじめ様々な取り組みを行っております。

【開催期間】 5月15日(金)

～6月28日(日)

※休館日.. 月曜日、6月24日

午前9時～午後5時

(入館.. 午後4時30分まで)

【会場】 石川歴史民俗資料館

【入場料】 無料



【資料展で説明を受ける生徒たち】

1953 (昭和28)年	1952 (昭和27)年	1949 (昭和24)年	1948 (昭和23)年	1947(昭和22)年	1946 (昭和21)年							
11月	6月	7月	8月	3月	12月	5月	4月	3月	2月	1月	11月	
天願の住民の復帰が許可されるが、QMカンパンは残され、解消になったのは1956年であった。	宇堅の住民の復帰が許可される。	津堅島民の帰島。	日本本土及び海外からの帰還者の受け入れが始まり村の人口が急激に大量増加する。	前原高等学校が前原初等学校を吸収合併し幸崎初等学校と改称。	前原高等学校が高江洲より与那城村西原の勝連ブスクの麓に米軍施設の提供をうけて移転。平敷屋区旧籍に復帰。同年5月から南風原、平安名からの移動が始まり、同年8月に移動完了する。	沖繩中央銀行(現琉球銀行) 設立。						